

平成30年度和歌山県学習到達度調査結果の概要

1 調査の概要

- (1) 調査日 平成30年10月17日(水)
- (2) 調査の目的
児童生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、個に応じた指導を充実させ、学習指導要領に示された学習内容の定着を図る。
- (3) 調査内容
- ①調査教科
小学校調査の第4学年は国語・算数、第5学年は国語・算数・理科
中学校調査の第1学年は国語・数学、第2学年は国語・数学・理科
- ②調査を実施した学校、児童生徒
- ア 小学校調査
公立の小学校第4・5学年、義務教育学校前期課程第4・5学年、特別支援学校小学部第4・5学年
- イ 中学校調査
公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年

	学校数	学年	児童生徒数		
			国語	算数・数学	理科
小学校 (小学部)	235校	第4学年	7,479人	7,479人	—
		第5学年	7,478人	7,470人	7,474人
中学校 (中学部)	122校	第1学年	6,762人	6,763人	—
		第2学年	6,890人	6,896人	6,902人

和歌山県学習到達度調査の意義

調査を生かして学力の定着！

児童・生徒

学校・教員

県教委

力を試す

採点・結果分析

授業に生かす

- ・個々の児童生徒の学力の定着状況を把握
- ・授業の工夫・改善
- ・個に応じた指導を充実

集計・分析

個人票

- ・補充学習等で課題の克服
- ・家庭学習の充実

○漢字を読むことに関する問題については、相当数の児童ができていますが、説明的な文章を解釈することや自分の考えをまとめて表現すること、よりよい表現に書き直すこと等に課題がある。

□正答率が高かった問題 ■課題が見られた問題

【第4学年】

□漢字の読みについては、相当数の児童ができています。

[①(1)①正答率 92.6% 無解答率 0.8% ②正答率 90.0% 無解答率 3.0%]

■説明的な文章の解釈において、目的に応じて中心となる語や文をとらえて文章を読み、読み取った文章を引用して自分の考えをまとめることに課題がある。

[②(3)正答率 18.7% 無解答率 14.6%]

【第5学年】

□漢字の読みについては、相当数の児童ができています。

[①(1)②正答率 88.4% 無解答率 0.8% ③正答率 96.3% 無解答率 0.6%]

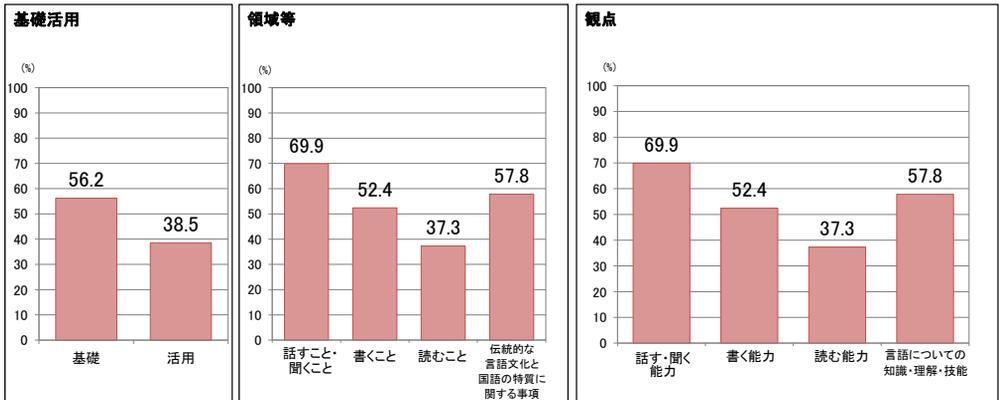
■文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることに課題がある。

[③(3)正答率 37.6% 無解答率 12.2%]

正答率の比較

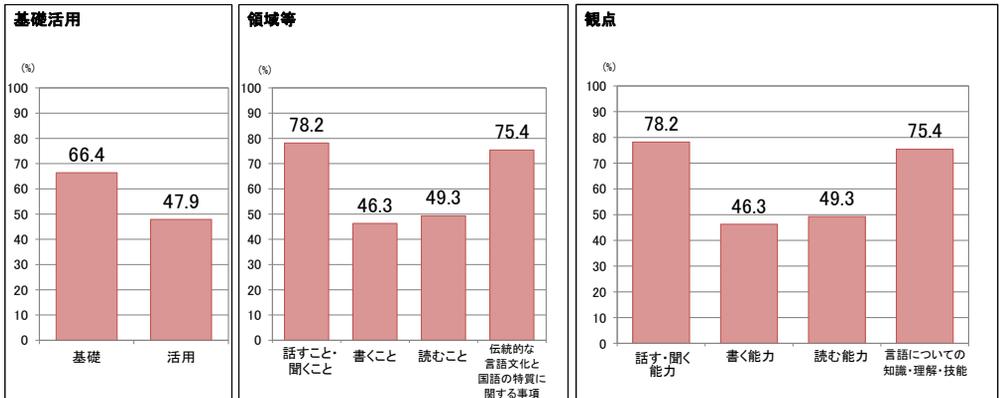
第4学年

平均 正答率 (%)	平均 無解答率 (%)
52.7	10.7



第5学年

平均 正答率 (%)	平均 無解答率 (%)
63.7	5.0



小学校算数

○四則計算等，基礎的・基本的な知識・技能を問う問題については，相当数の児童が
できているが，問題の意味を読み解いて，言葉や図・数・式などを関連付けて考える
問題や考え方を説明する問題等に課題がある。

□正答率が高かった問題 ■課題が見られた問題

【第4学年】

□整数の乗法及び小数の加法の計算は，相当数の児童ができています。

[1] (1) 正答率 96.4% 無解答率 0.2% (5) 正答率 96.8% 無解答率 0.1%]

■日常生活の場面において，活動にかかる時間を考えて時刻を求めることに課題がある。

[11] 正答率 11.7% 無解答率 4.0%]

【第5学年】

□乗数が整数である場合の小数の乗法及び同分母の分数の加法の計算は，相当数の児童ができて
いる。

[1] (1) 正答率 94.7% 無解答率 0.1% (5) 正答率 94.5% 無解答率 0.2%]

■合同な三角形がかける条件を理解し，かくために調べる必要がある辺の長さや角の大きさについて
考えることに課題がある。

[14] 正答率 27.6% 無解答率 11.7%]

正答率の比較



中学校国語

○聞き取ったことを整理してまとめたり、わかりやすく伝えるために資料をどう取り上げるかを考えたりすることについては、相当数の生徒ができていますが、文章中に示されている具体的な例に着目し、内容理解に役立てること等に課題がある。

□ 正答率が高かった問題 ■ 課題が見られた問題

【第1学年】

□ 聞き取ったことを整理しながら相手の考えをまとめることについては、相当数の生徒ができています。

[②(3) 正答率 85.4% 無解答率 3.8%]

■ 文章中に示されている具体的な例に着目し、内容理解に役立てることに課題がある。

[④(2) 正答率 13.0% 無解答率 0.7%]

【第2学年】

□ わかりやすく伝えるために、資料をどう取り上げるかを考えることについては、相当数の生徒ができています。

[②(2) 正答率 81.8% 無解答率 0.4%]

■ 事実や意見が相手に効果的に伝わるように文章を構成し、説明や具体例を加えて書くことに課題がある。

[④(4)②2 正答率 34.4% 無解答率 25.3%]

正答率の比較



○四則計算等、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題については、相当数の生徒ができていますが、具体的な場面において、事象を正の数、負の数を使った式に表す問題、事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題等に課題がある。

□正答率が高かった問題 ■課題が見られた問題

【第1学年】

□比例の関係を使って、方法を説明することについては、相当数の生徒ができています。

[③(1)正答率 82.1% 無解答率 0.5%]

■具体的な場面において、事象を正の数、負の数を使った式に表すことに課題がある。

[⑦(2)正答率 37.8% 無解答率 7.9%]

【第2学年】

□整式の計算については、相当数の生徒ができています。

[⑥(1)①正答率 89.7% 無解答率 2.2%]

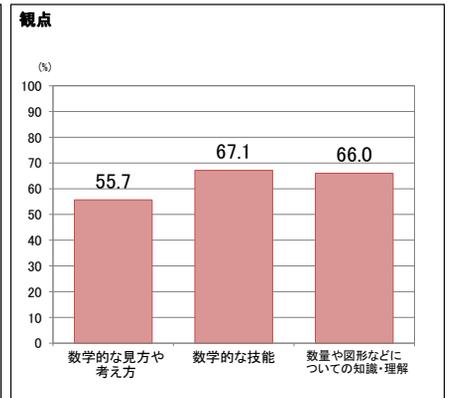
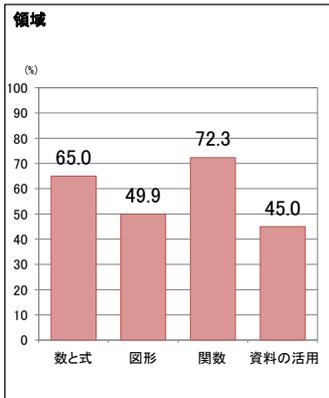
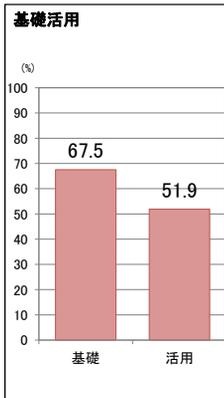
■事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することに課題がある。

[⑦(1)正答率 24.3% 無解答率 26.5%]

正答率の比較

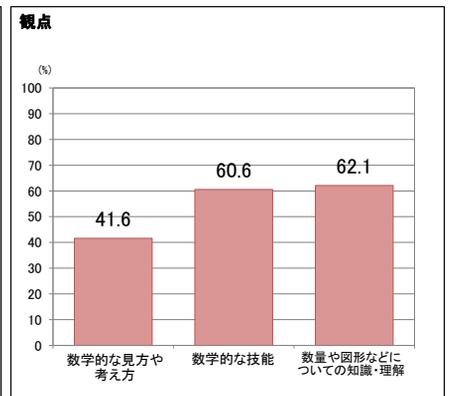
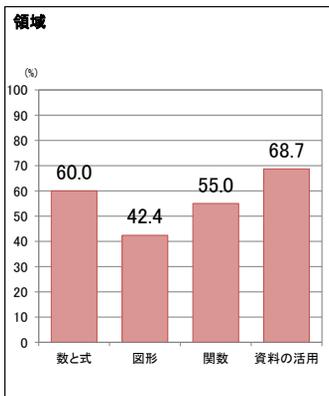
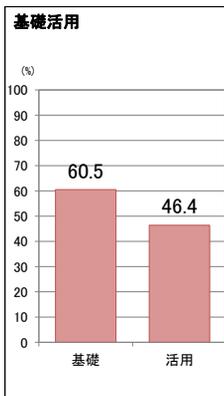
第1学年

平均 正答率 (%)	平均 無解答率 (%)
63.9	4.3



第2学年

平均 正答率 (%)	平均 無解答率 (%)
57.2	7.5



小学校理科

○人の体のつくりにおいて、どの部分が筋肉であるかを指摘する問題については、相当数の児童ができていますが、空気の性質を使って空気でっぽうのしくみを説明すること等に課題がある。

□正答率が高かった問題 ■課題が見られた問題

【第5学年】

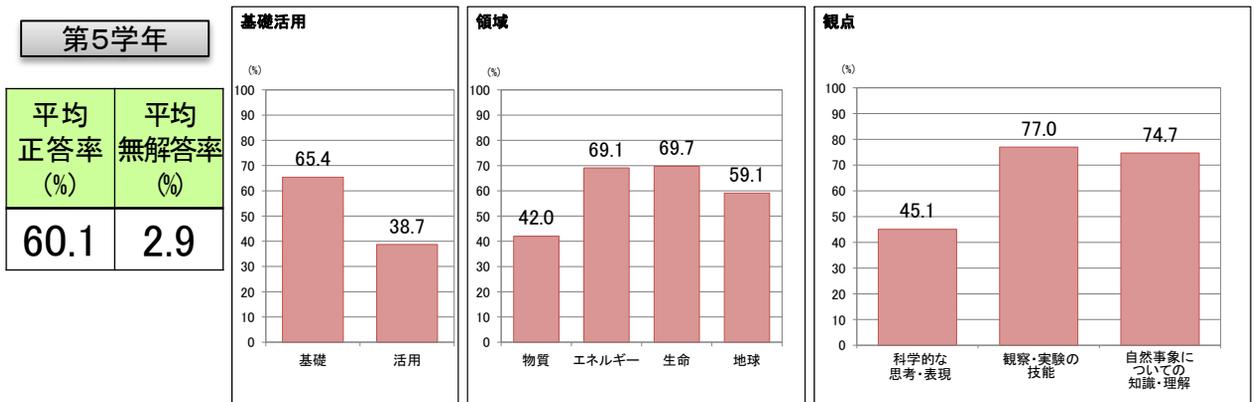
□人の体のつくりについて骨や筋肉があることを理解し、示された部分が筋肉であると指摘することについては、相当数の児童ができています。

[4](1)正答率 96.0% 無解答率 0.8%

■空気の体積変化や押し返す力をもとに、空気でっぽうのしくみについて記述することに課題がある。

3正答率 20.6% 無解答率 3.2%

正答率の比較



中学校理科

○生物の観察記録から、多細胞生物を選択する問題については、相当数の生徒ができていますが、特定の質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めること等に課題がある。

□正答率が高かった問題 ■課題が見られた問題

【第2学年】

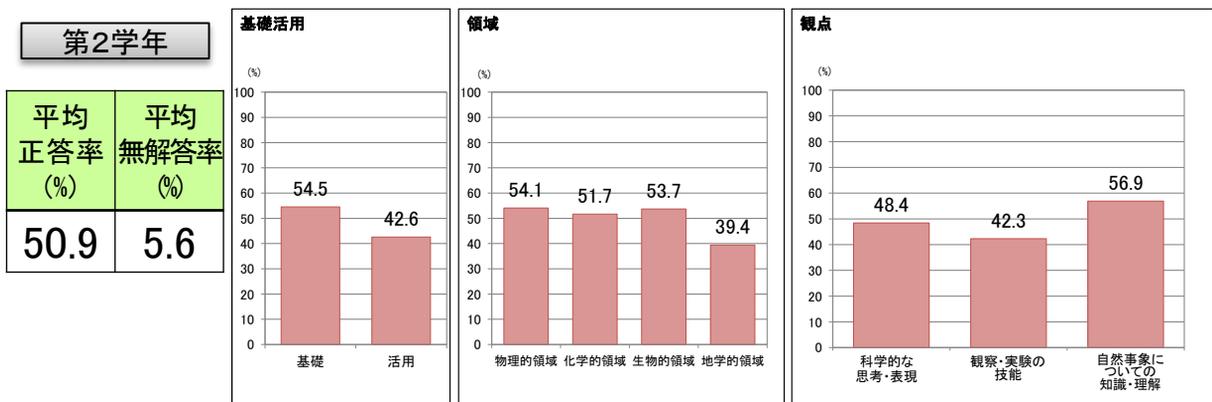
□水中の生物から、多細胞生物を選ぶことについては、相当数の生徒ができています。

1正答率 81.1% 無解答率 0.2%

■濃度が異なる水酸化ナトリウム水溶液のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘することに課題がある。

[5](2)正答率 32.2% 無解答率 1.3%

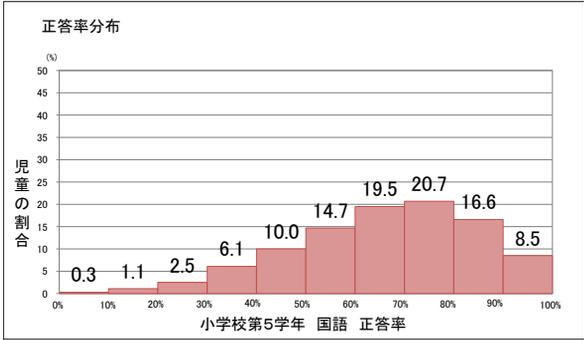
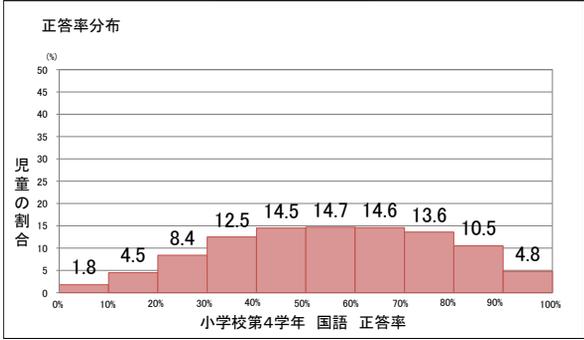
正答率の比較



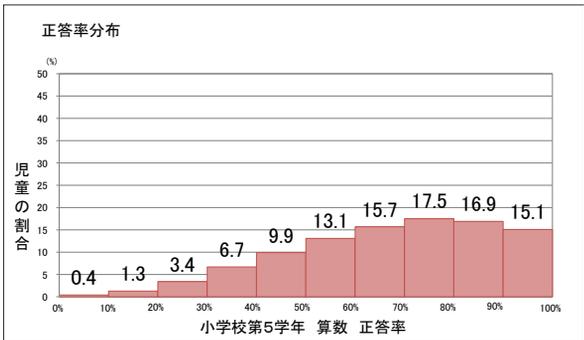
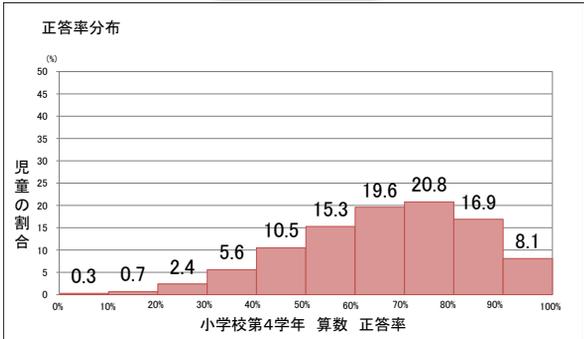
3 各教科の平均正答率の分布グラフ

小学校

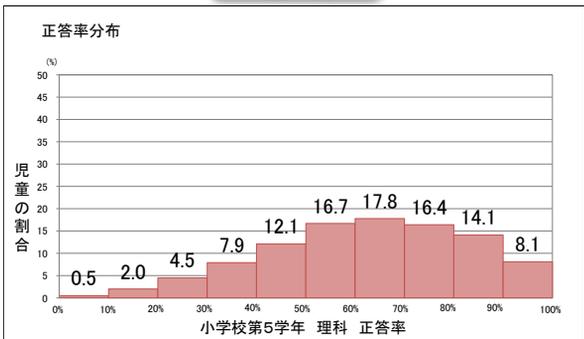
国語



算数

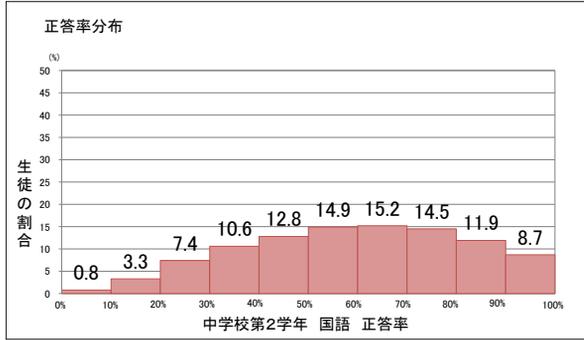
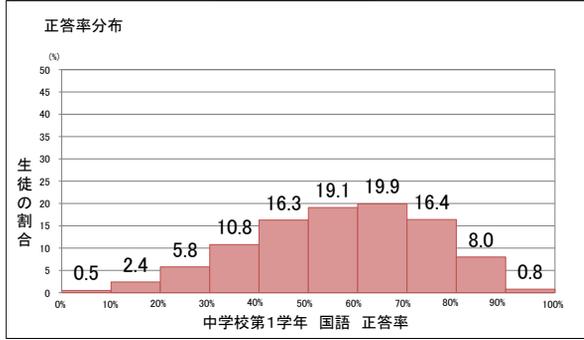


理科

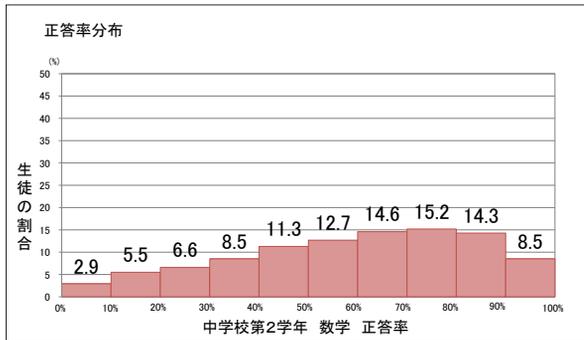
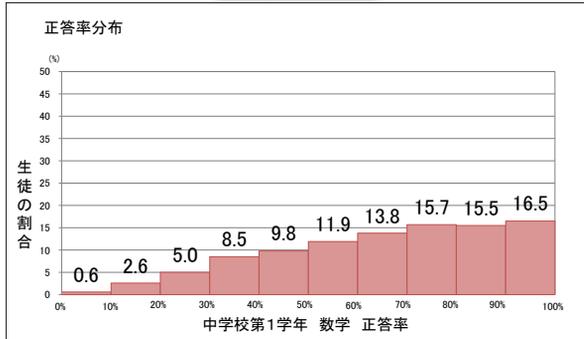


中学校

国語



数学



理科

